

「個別の指導計画」を活用するために

ここで示している書式は、通常の学級に在籍する児童生徒を想定して示した参考例です。**決まったものはありません。**すでに学校で使用している書式があれば、それを活用しましょう。また、新たに作成する場合も、必要に応じて**項目等を変更し、作成しても構いません。**学級や児童生徒の実態に適したものにしましょう。

1 「個別の指導計画」とは

一人一人の児童生徒に対して適切な指導や必要な支援を行うために、具体的な指導目標や手立て等を示したものです。

2 「個別の指導計画」を作成することのメリット

【子どもの姿が明確になる】

- 一人一人の障害や特性に応じたきめ細かな指導が行えます。
- 個別的な指導だけでなく、集団の中での個別的な配慮や支援についても検討できます。
- 指導を定期的に評価することにより、指導への改善につなぐことができます。



【指導・支援の目標や指導内容などを共有する】

- 校内の教職員の共通理解や校内体制づくりに役立ちます。
- 目標や指導内容、児童生徒の様子等について、関係者が情報を共有できます。
- 保護者に対して、学校での取組や対応について、明確に伝えることができます。

《こんな人と こんな場で共有できます》



校内委員会で



支援員やスクールカウンセラーなど
校内の関係者との話し合いで



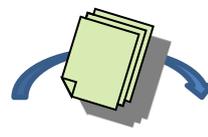
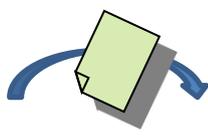
学年団や教科担当など
との話し合いで



保護者との懇談で

【指導や支援をつなぐ】

- 校内や学校間の引き継ぎの資料となり、一貫性のある指導ができます。



3 「個別の指導計画」の作成から活用の流れ

気付き・実態把握

チェックシートの利用

学年団会等での話し合い

実際の指導場面での気付き

校内委員会

「個別の指導計画」の作成

指導・支援の実施

「個別の指導計画」の点検

実態把握

- 子どもが困っていることは？
- つまずきの要因は？
- 学習面や行動面、社会性等の特性は？
- 子どもの得意なことや苦手なことは？
- 本人や保護者の願いは？

【活用できる資料】

「『気付き』が支援のはじまりです」(特別支援教育課)
(特別支援のための実態把握チェックシート)

目標・手立ての設定 (Plan)

- 長期目標 (1年間程度) の設定
 - 優先順位をつけ、2~3に絞っているか
 - 指導の場 (学級、通級、部活動等) は適切か
- 短期目標 (学期・半年程度) の設定
 - 長期目標と関連があるか
 - 達成可能な目標になっているか
- 指導内容・方法 (手立て)
 - 具体的な手立てが記述されているか
 - 子どもが無理なく取り組める内容か

学校全体での指導・支援の実施 (Do)

- 学習活動の工夫
- 個への手立ての工夫
- 指導の場の工夫

評価・分析・見直し (Check)

- 子どもの変容の評価
 - 子どもの様子がどのように変わったか
 - 指導の手だては適切であったか
- 目標の設定、支援内容・方法 (手立て) の見直し
 - 評価に基づいて次の方向性が示されているか

改善 (Action)

- 実態把握の再検討
- 目標、課題の内容、具体的な手立ての再設定
 - 目標達成の場合、新たな目標が設定されているか
 - 目標未達成の場合、新たな手立てが示されているか
 - 新たな目標に対する指導の場が示されているか

4 「個別の指導計画」活用事例

(各校の活用事例から)

【サポートファイル「かけはし」による情報の引き継ぎ】

- サポートファイル「かけはし」を作成している保護者には、これまでの「個別の指導計画」を綴ってもらって新しい学校や担任、関係者に見てもらうことで、情報を引き継ぐことができます。



【ケース会議での対象生徒の様子を知る資料としての活用】

- 支援員やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等とのケース会議で、「個別の指導計画」を活用して話し合うことができます。

【高等学校入学者選抜での特別措置】

- 小学校や中学校での定期考査や授業での配慮事項を「個別の指導計画」に記録として残しておくことで、高等学校の入学者選抜で特別措置を受けられる可能性が高まります。

【データベース化により情報活用】

- 「個別の指導計画」をデータベース化し、校内LANで共通のパスワードを使って全教職員が閲覧できるようにしています。そうすることで、教職員が時間を合わせて集まらなくても、個々の情報を共有することができます。



【ファイルの保管により活用】

- 職員室や学年団室などに、一人一人の「個別の指導計画」を綴じたファイルを保管しています。新しい情報が加わった時などに職員に周知し、必要なときにいつでも見ることができます。

【学年団会での活用】

- 「個別の指導計画」を基に、学年団会などで支援の在り方について話し合いをもち、指導・支援の目標や指導内容、方法などの共通理解を図っています。

【期末懇談で保護者との活用】 → 【児童生徒の成長の跡を確認】

- 期末懇談の際に、「個別の指導計画」に沿って保護者と目標や手立て、成果などを話し合うことで、児童生徒の成長の跡を確認することができます。



5 「個別の指導計画」を活用する上での留意点

- 「個別の指導計画」には、個人情報が多く含まれています。作成する際には保護者の了承は必要ありませんが、ここで知り得た情報を校内関係者以外の人に伝える際には、保護者の了承が必要です。一人一人の教育的ニーズに応じた指導をしていくためにも、学校と保護者がともに計画し、評価していくことが望まれます。

個別の指導計画

(R . . 作成) 担任名

氏名		生年月日	年	月	日	歳	第	学年	組
現 在 の 実 態	子ども保護者の願								
	生活・行動面								
	学習面								
	社会性・情緒面								
重点的に取り組む指導の観点									

今年度の目標(長期目標)		主な指導の場
学習面		
生活行動面・		
社会性・対人関係		

(1) 学 期 の 取 り 組 み

	指 導 目 標 (短期目標)	具 体 的 手 立 て	評 価 (◎ ○ △)	来学期の指導の方向性
学習面／生活・行動面 社会性・対人関係				

(2) 学 期 の 取 り 組 み

	指 導 目 標 (短期目標)	具 体 的 手 立 て	評 価 (◎ ○ △)	来学期の指導の方向性
学習面／生活・行動面 社会性・対人関係				

(3) 学 期 の 取 り 組 み

	指 導 目 標 (短期目標)	具 体 的 手 立 て	評 価 (◎ ○ △)	来年度の指導の方向性
学習面／生活・行動面 社会性・対人関係				

※評価：◎おおむね達成した ○一部達成した △達成していない

個別の指導計画

記入例

(R 4. 5. 10作成) 担任名 ○ ○ ○ ○

氏名		○○○○	生年月日	H23年 8月 19日	10歳	第 5学年	2組
現在の の実態	子ども保護者の願	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に楽しみたい。(本人) ・学年相応の学力を身につけてほしい。(保護者) 					
	生活・行動面	<ul style="list-style-type: none"> ・忘れ物が多い。 ・係活動に積極的に取り組むことができている。 ・急な予定変更があると、不安定になり、活動に参加できなくなることがある。 					
	学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読む時に、文字や行をとばしてしまうことがある。 ・書くことが苦手な時間がかかる。作文も苦手である。 ・計算は得意である。 ・文章題になると式が立てられず間違いが多い。 ・理科の実験や観察は関心を示す。 					
	社会性・情緒面	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間などに、ルールが守れずに友達とトラブルになることがある。 ・冗談が通じない。 ・相手の気持ちを考えずに、遠慮なく言うことがある。 					
重点的に 指導の 観点 を 取る	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読んだり書いたりする力を身につける。 ・友達とのトラブルを減らす。 (ルールを守る。相手の気持ちを考えて行動する) ・忘れ物を減らす。 ・予定の変更に対応できるようになる。 						

今年度の目標(長期目標)		主な指導の場
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の読み書きの力をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の学級 ・定期考査 ・通級指導教室 ・放課後取り出し指導
生活行動面	<ul style="list-style-type: none"> ・忘れ物を減らす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活全般
社会性・対人関係	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の中でルールを守ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活全般 ・通級指導教室

(1) 学 期 の 取 り 組 み

	指 導 目 標 (短期目標)	具 体 的 手 立 て	指 導 の 評 価 (◎ ○ △)	来 学 期 の 指 導 の 方 向 性
学 習 面 / 社 会 性 / 生 活 / 対 人 関 係	<ul style="list-style-type: none"> ・行をとばさずに文章を読む。 ・勝ち負けにこだわらず、ルールを守って遊ぶ。 ・自分の持ち物の準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読みやすくするために、文字を24ポイントに拡大したプリントを使って読むようにする。(学級・定期考査) ・事前にルールを話し合ってから遊ぶようにする。 ・チェックリストを使用し、準備したもののチェック欄に保護者と一緒に印をつけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ・文字を拡大することで行をとばさず読めるようになった。しかし、読めない漢字をとばしてしまうため、まだ文章が十分理解できていない。 △ ・ルールは理解できていても、まだ負けそうになると勝手にルールを変えようとする。 ○ ・自分で確認しながら準備するようになり、忘れものが減ってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通級指導教室や放課後指導を活用し、漢字にルビをふったプリントで読む練習をする。定期考査でも使用する。 ・通級指導教室のゲームを通して、ルールを目に見える形で掲示するなど視覚化をする。 ・定着するまで、この方法を継続し、様子を見る。

(2) 学 期 の 取 り 組 み

	指 導 目 標 (短期目標)	具 体 的 手 立 て	指 導 の 評 価 (◎ ○ △)	来 学 期 の 指 導 の 方 向 性
学 習 面 / 社 会 性 / 生 活 / 対 人 関 係	<ul style="list-style-type: none"> ・文字をとばさずに文章を読む。 ・勝ち負けにこだわらず、ルールを守って遊ぶ。 ・自分で持ち物の準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字にルビをふったプリントを用意して、読む練習をする。(通級・放課後・定期考査) ・話し合ったルールを紙に書いて提示し、確認できるようにする。(通級) ・1学期に引き続きチェックリストを使用し、準備したもののチェック欄に自分で印をつけるようにする。 		

(3) 学 期 の 取 り 組 み

	指 導 目 標 (短期目標)	具 体 的 手 立 て	指 導 の 評 価 (◎ ○ △)	来 学 期 の 指 導 の 方 向 性
学 習 面 / 社 会 性 / 生 活 / 対 人 関 係				

※評価：◎おおむね達成した ○一部達成した △達成していない

個別の指導計画

作成のポイント

(. . . 作成) 担任名

氏名	生年月日	年 月 日	歳	第 学年 組
現在の 実態	子ども保護者の 願い	※できるだけ、保護者や本人の願いを取り入れ、計画・評価に参画してもらうことが望まれます。		
	学習面	※教科等の習得状況、学習習慣の形成、学習意欲、学習上の配慮事項など ※各教科等における、得意な面や苦手な面について記入します。		
	生活・行動面	※基本的な生活習慣、健康面の状態、安全、生活リズムなど ※学校生活を送る上で、気がかりな行動の様子とその行動が起こるきっかけとなる事柄や状況などを記入します。		
	社会性・情緒面	※興味・関心、指示理解、意思表示、情緒、集中力など ※集団での活動や友達とのかかわりなどの様子、コミュニケーションに関する課題などを記入します。		
重点的に 取り組む 指導の 観点	※上記の実態を総合的に分析し、生活や学習上の困難を改善・克服するために、重点的に取り組む指導の観点をまとめ、箇条書きで記入します。			

 「現在の実態」の欄は、できるだけ多く記入しましょう。

※「学習面(遊び・運動面)」、「生活・行動面」、「社会性・情緒面」の3項目について、できるだけ多くの情報を書き込みます。

※つまずきや課題だけでなく、得意なことも指導・支援のヒントになることが考えられるので、できるだけ記入しましょう。

今年度の目標(長期目標)		主な指導の場
学習面	※一年間程度の期間を設定して目標をたてます。	※学校内で考えられる学びの場から、目標達成に向けた指導の場を記入します。
生活行動面・ 社会性・ 対人関係	 「長期目標」は、優先順位をつけて、2~3項目に絞ってたてましょう。 ※緊急性があるもの、成果が期待できるものから優先的に設定しましょう。 ※必要に応じて、見直しや修正をしましょう。 ※将来の自立や社会参加につながる目標を設定しましょう。	

() 学期の取り組み		
	指導目標（短期目標）	指導の手立て
学習面／生活・行動面 社会性・対人関係	<p>※学期ごとの期間を設定して目標をたてます。</p> <p>👉「短期目標」は、具体的な目標をたてましょう。</p> <p>※数値目標を明示するなど、できるだけ肯定的で具体的な記述にしましょう。</p> <p>※スモールステップの課題を意識して設定しましょう。</p> <p>※評価が可能な目標をたてましょう。</p>	<p>※短期目標を達成するために必要な支援内容や方法を設定します。</p> <p>👉目標達成のための、具体的な手立てを設定しましょう。</p> <p>※幼児児童生徒の特性に配慮し、無理なく取り組めるようにしましょう。</p> <p>※受検上の配慮につながると思われる支援等、「合理的配慮」として実施する配慮について具体的に記入しましょう。</p>
	評価（◎ ○ △）	来学期の指導の方向性
学習面／生活・行動面 社会性・対人関係	<p>◎</p> <p>○</p> <p>△</p> <p>※学習評価について、幼児児童生徒の立場で記入します。</p> <p>👉「評価は、できるだけ可視化しましょう。</p> <p>※学期の取組について、3段階で評価しましょう。（◎:おおむね達成した、○:一部達成した、△:達成していない）</p>	<p>※評価に基づき、来学期（年度）の方向性を記入します。</p> <p>👉教師側の評価を行い、見直しましょう。</p> <p>※指導の評価として、目標設定や指導内容・方法は適切であったかなどの観点で見直し、改善しましょう。</p>

() 学期の取り組み		
	指導目標（短期目標）	具体的手立て
学習面／生活・行動面 社会性・対人関係	<p>👉前学期終了時の方向性を基に、指導目標や具体的手立てを設定しましょう。</p> <p>※目標が達成できた場合（◎）は、次の目標に移行しましょう。</p> <p>※目標が未達成の場合（○、△）は、目標を見直したり、手だてを変えて継続して取り組んだりしましょう。</p>	
	指導の評価（◎ ○ △）	来学期の指導の方向性
学習面／生活・行動面 社会性・対人関係	◎	
	○	
	△	